

水道水に関する意識／東京・大阪・中京圏

【水道水への評価】

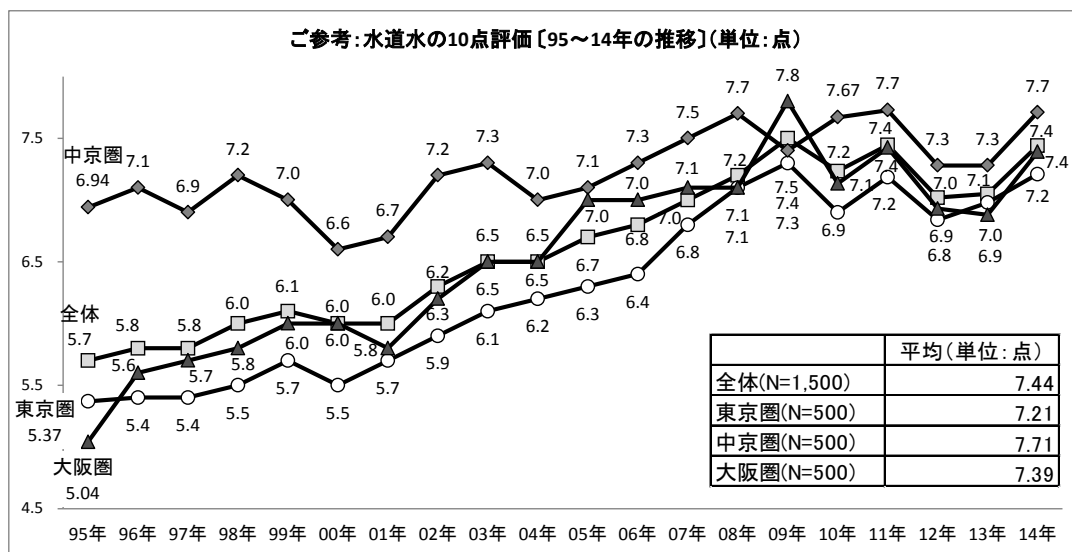
Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇全体の平均は7.44点

世界トップレベルの安全性を誇る日本の水道水。その評価は、ここ数年下降傾向にありましたが、今回はどうだったのでしょうか？

10点満点で聞いたところ、全体の平均は7.44点と昨年(7.05点)から0.39ポイント上昇し、10点満点をつけた人が16.3%と、昨年(8.2%)からほぼ倍増しました。

居住地別では中京圏が7.71点で昨年と変わらずトップでしたが、東京圏と大阪圏もそれぞれ7.21点、7.39点と、3年ぶりに7点台を回復しました。



対象エリア：1995年…東京都、大阪府、愛知県、1996～2014年…東京圏(1都3県)、大阪圏(2府1県)、中京圏(3県)
有効回答数：1995～2009年…467～554、2010～2014年…1,500

Q.水道水を飲用水として10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

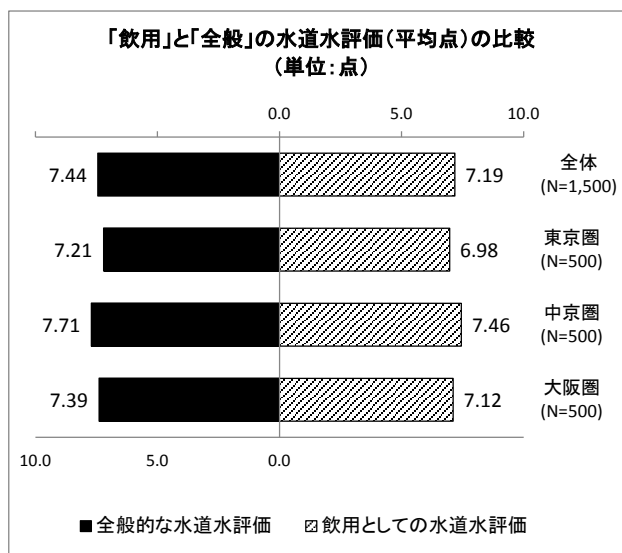
◇全体の平均は7.19点

次に、飲用目的に限定した水道水の評価を前述の全般的な水道水評価と同様に10点満点で聞いたところ、全体の平均は、昨年(6.83)から0.36ポイントアップの7.19点と、こちらも数値が上昇しました。

居住地別では中京圏が昨年に続きトップ(7.46点)、次いで大阪圏(7.12点)、東京圏(6.98点)と、傾向的には全般的な水道水への評価と変わりありませんでしたが、東京圏のみ7点台に届きませんでした。

飲用としての水道水 10 点評価(平均点)

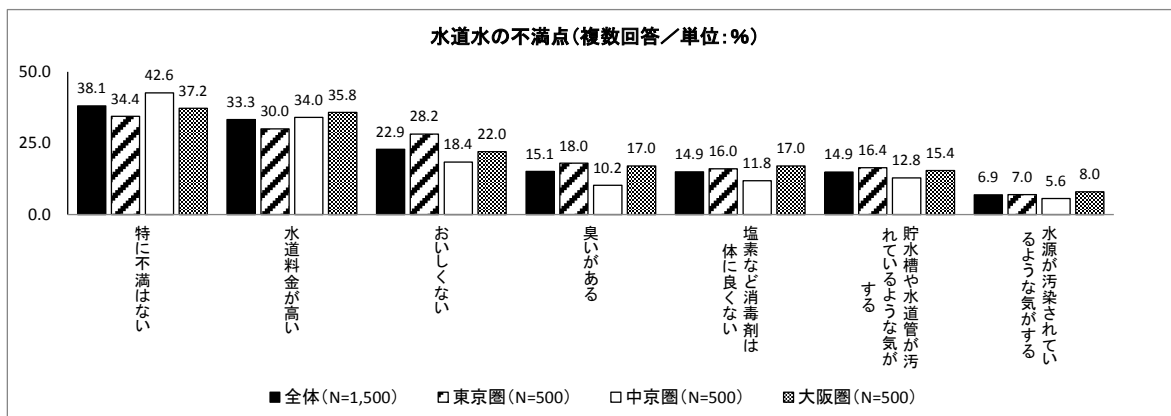
	平均(単位：点)
全体(N=1,500)	7.19
東京圏(N=500)	6.98
中京圏(N=500)	7.46
大阪圏(N=500)	7.12



Q.水道水について不満を感じていることは？（8択＋その他＋特に不満はない）

◇「特に不満はない」が1位も、数値は若干下がる

「料金が高い」の数値上昇は、消費増税の影響か？



「水道水に対する不満」を聞いたところ、1位は昨年と変わらず「特に不満はない」(38.1%)でしたが、その数値は昨年の40.2%から若干下がりました。

一方、「不満」の1位は「水道料金が高い」(33.3%)、2位「おいしくない」(22.9%)と、例年と同様の結果でした。「水道料金が高い」の数値が昨年(29.4%)から3.9ポイント上昇しましたが、これは、今年4月からの消費増税が少なからず影響したのかもしれませんが。

【水道水の飲用実態】

Q.ふだん家庭で飲んでいる水は？（5択＋その他＋水は飲まない）

Q.ふだん家庭で最も飲んでいる水は？（5択＋その他）

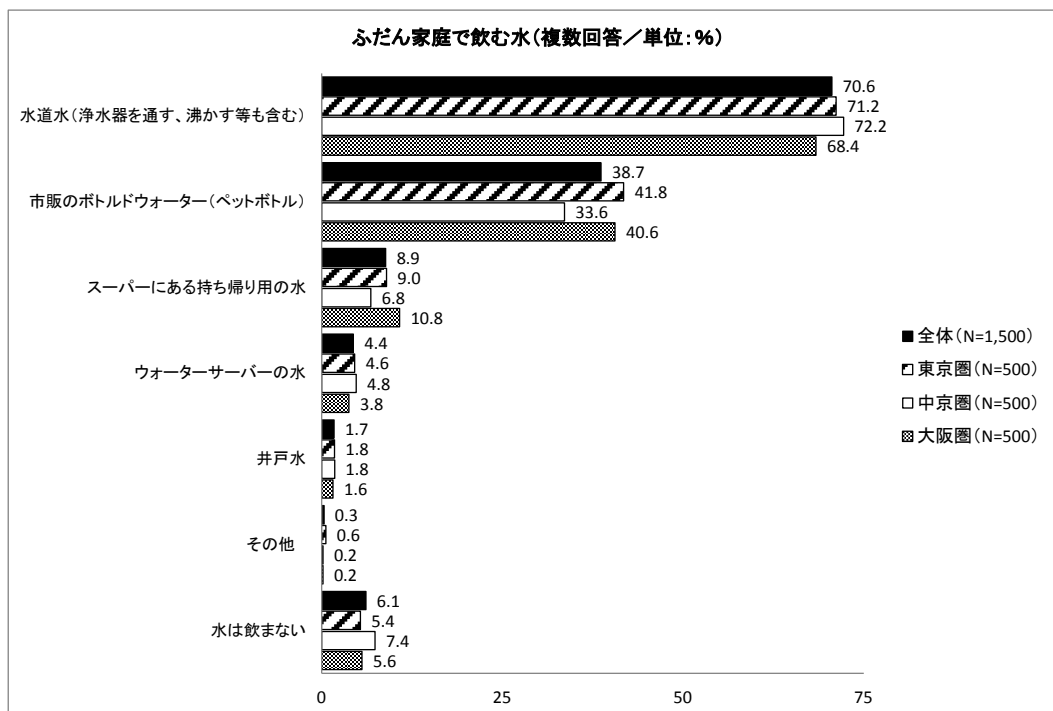
◇約7割が「水道水」を飲んでいる

◇3割超が「水道水」以外の水を最も飲んでいる

それでは、家庭ではどのような水が飲まれているのでしょうか？

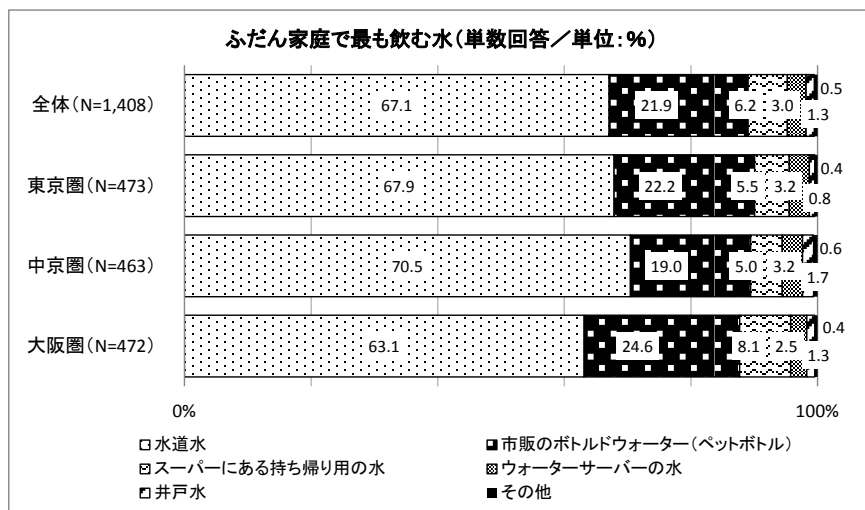
結果は、「水道水」(70.6%)が7割超の回答を得て1位となり、「市販のボトルドウォーター」(38.7%)がこれに続き、「水は飲まない」人は6.1%でした。

居住地別の順位は、3エリアとも1位「水道水」(東京圏71.2%、大阪圏68.4%、中京圏72.2%)、2位「市販のボトルドウォーター」(東京圏41.8%、大阪圏40.6%、中京圏33.6%)でしたが、東京圏と大阪圏は「市販のボトルドウォーター」の数値が4割を超えたのに対し、中京圏では3割少々と、地域差がありました。



次に、「水は飲まない」人を除いて「最も家庭で飲んでいる水」を聞いたところ、1位「水道水」(67.1%)、2位「市販のボトルドウォーター」(21.9%)、3位「スーパーにある持ち帰りの水」(6.2%)、4位「ウォーターサーバーの水」(3.0%)、5位「井戸水」(1.3%)と、順位は昨年と変わりませんでした。大多数の人が「水道水」を挙げる一方で、約3人に1人が「水道水」以外を家庭で飲むメインウォーターとしています。

居住地別では、東京圏は「水道水」(67.9%)が昨年(59.1%)から8.8ポイント上昇したのに対し、大阪圏は5.0ポイント減少(昨年68.1%→今回63.1%)するなどの増減がみられました。



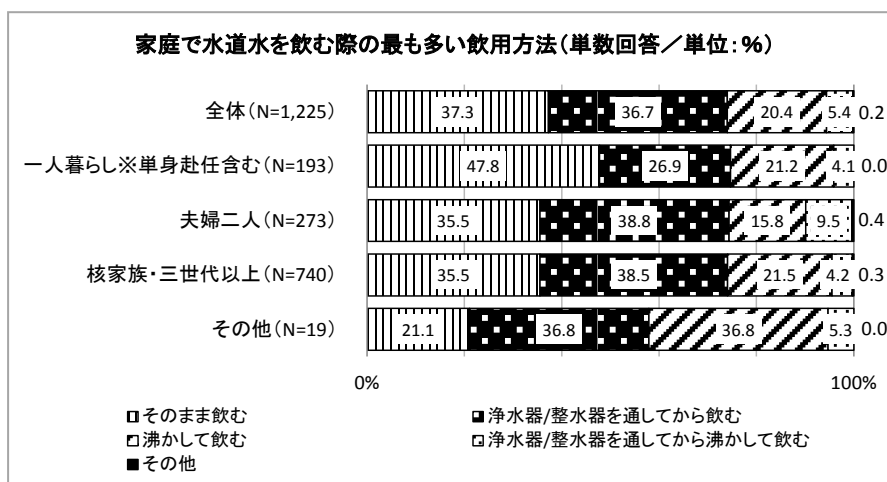
Q.家庭で水道水を飲む際の最も多い飲用方法は？ (4択+その他)

◇“そのまま”では飲まない人が6割超

一人暮らしの人は、そのまま飲む割合が高い

「水道水を飲む際の最も多い飲用方法」の結果は、1位「そのまま飲む」(37.3%)、2位「浄水器/整水器を通してから飲む」(36.7%)、3位「沸かして飲む」(20.4%)となり、2位「浄水器/整水器を通してから飲む」以下、「その他」(0.2%)までの“何らかの手を加えて飲む人”(=“そのままでは飲まない人”)の割合は、昨年と変わらず6割超(62.7%)でした。

なお、同居の家族構成別にみると、一人暮らし(単身赴任含む)は「そのまま」が47.8%と、夫婦二人(35.5%)や核家族・三世代以上の家族(35.5%)に比べて数値が高く、「浄水器/整水器を通して」が26.9%と他の家族構成(夫婦38.8%、核家族・三世代以上38.5%)より低いなど、独自色を見せました。



◇「そのまま飲む」人の飲用としての水道水評価は、10点満点中8点

飲用方法別の水道水10点評価(平均点)

	平均(単位:点)
全体(N=1,500)	7.19
そのまま飲む人(N=456)	8.00
手を加えて飲む人(N=769)	7.11
水道水は飲まない人(N=275)	6.07

3頁の「飲用としての水道水10点評価」を、上記の飲用方法別で見ると、「そのまま飲む」人の平均は8.00点と「全体」の平均(7.19点)を大きく上回る高得点でした。一方、「水道水は飲まない」人の平均は6.07点で、「全体」の平均を大きく下回りました。この結果を踏まえると、飲用としての水道水への評価が低い人ほど、水道水を飲用の対象とは見ていないと言えるかもしれません。